

町政報告 (要約)



平成28年第3回町議会定例会が9月13日に招集され、報告1件、議案3件、意見案1件が審議され、同月14日に閉会しました。

そのあらましについてお知らせします。

はじめに

8月20日以降、道内を次々と襲った台風による大雨などにより、全道各地で農地・農業施設や漁業養殖施設、河川・道路・鉄道などの施設に甚大な被害が発生し、行方不明者や尊い人命が失われるなど大規模な被害が発生しました。

今なお不自由な生活を余儀なくされており、被災者の皆様に、衷心よりお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧を町民の皆さん

とともにご祈念申し上げます。

また、今回の大雨などによる被災市町村の状況を、他の地域のこととせず、住民への避難・災害情報伝達や避難のあり方、施設の巡回方法など、当町の今後の防災対策に役立てる被災地事例情報の収集に努めます。

去る7月25日告示された石狩後志海区漁業調整委員会委員選挙において、当選の栄に浴された佐藤一義氏に心からお祝いを申し上げます。

海区漁業調整委員の海面漁業調整の重要な職責を通して、本道の漁業生産力の発展にご尽力いただきますようお願い申し上げます。

ふるさと納税寄附金の状況

ふるさと納税制度の活用により、当町の自主財源確保と、返礼品の活用による地元特産品の消費拡大を図り基幹産業の活性化に資するため、その導入諸準備を進めてきたところですが、去る7月20日より受付を開始しました。

9月6日現在、返礼品取扱参加事業者は、9事業者、49品目

で、この間のふるさと納税寄附金の申し込みは、162件、434万4千円となっております。

民間小型風力発電計画への協力要請について

一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会(三浦 惺会長(日本電信電話株式会社取締役会長)、東京都)から、町内に小型風力発電設備を設置し、風力による発電事業を行う

ため、適地候補地(日司地区緑地広場内2箇所、野塚小学校グラウンド周辺1箇所、神威岬自然公園内2箇所、神岬会館周辺1箇所)などの町有地の賃借の協力要請がありました。

この計画は、町が直接的に売電収入を得る発電事業者として設置するものではありませんが、原子力を補う再生可能エネルギーの拡大を目指す国の政策に沿って、半島先端の当町の立地がその可能性を有し、官民連携の視点から地方の創生への期待もできる計画事案であるとす

れば、災害時の非常用電源の確保や自主財源(固定資産税、法人町民税、土地貸付収入)の確

保、地域振興への貢献、住民生活環境への影響、景観への配慮等、様々な観点から検討したうえで、当町にとって特に重大な公益性を損う問題がなく、かつ貸付候補地となる町有地が公有財産の管理上も特別の支障が認められない場合には、当該要請に응える方向で回答したいと考えています。

なお、当該事業者からの要請の概要につきまして、別途、議会での説明の機会をいただきます。

国の新たな経済対策

政府は、去る8月2日、事業費規模で28兆円を超える新たな経済対策として「未来への投資を実現する経済対策」を決定し、それを実行する費用などを盛り込んだ、今年度の第2次補正予算案を同月24日閣議決定し、今月末にも招集される臨時国会に提出するとしています。

この第2次補正予算政府案において、市町村が活用できる事業施策の詳細については、今後の情報を待つこととなりますが、本町においても、その動向

を注視していきたいと考えています。

総務課関係

日本海津波浸水想定の見直し 道が年内に公表予定

去る7月12日、佐藤北海道危機管理監が来庁し、津波防災地域づくりに関する法律に基づき、北海道が見直し作業を進めてきた北海道日本海沿岸津波浸水想定は、国との協議はおおむね了し、今後開催する北海道防災会議・地震専門委員会による、津波による浸水する場合に想定される水深の検討、確認がなされた後、本年中には同浸水想定を公表する予定であること、また、同浸水想定設定が終わった後には、「警戒避難体制を特に整備すべき土地の区域」を指定する作業等が予定されていることなどの説明がありました。

町としては、東日本大震災以降、町民の皆さんが高い関心を寄せている津波防災対策の充実に役立てるため、北海道の新たな浸水想定公表が行われた後は、速やかに議会へ情報提

供するとともに、町内会等の協力をいただき地域説明会を開催するなど、その周知啓発を行います。また、道の「警戒避難体制を特に整備すべき土地の指定」等の状況を勘案しながら、町内各地区の課題条件を考慮した地域津波防災対策の取り組みを推進していきます。

北電泊発電所地域説明会

北海道電力㈱が後志管内20市町村で計61回開催した「泊発電所の安全対策等に関する地域説明会」は、去る8月9日、京極町での説明会をもって終了しました。

去る9月2日、東京都において、国の関係14省庁及び北海道により構成される泊地域原子力防災協議会が開催され、泊村、共和町及びUPZ圏10町村の12町村長などとともにオプザーパーとして参加してきました。

同協議会では、内閣府が取りまとめた「避難計画、国の対応及び電力事業者の協力」からなる『泊地域の緊急時対応』は、「原子力災害対策指針に照らし具体的にかつ合理的なものである。」

と確認されたところです。

今後、内閣総理大臣を議長とする国の原子力防災会議に「同緊急時対応」を報告し、了承を求めることになります。今秋予定されている国の原子力総合防災訓練は、同緊急時対応の具体性・実効性を検証することになり、当該検証結果を踏まえて、更なる必要な改善措置を講じていくことが国の防災基本計画に規定されています。

現在、町では、原子力災害時の町民等への防護措置に関して必要事項を定める「原子力防災退避等措置計画」の修正作業を行っていることから、同緊急時対応など国・道の関連する計画及びマニュアルなどの整合性にも留意して作業を進めていきます。

泊発電所の緊急時防護措置実施の判断基準となる空中線量率の測定が可能な「電子線量計」は、北海道が実施主体となり、旧幌武意小学校、丸山会館、岬の湯しゃこたん、余別地区コミュニティセンターの敷地内に新たに整備されることになりました。これにより整備済の婦美会館、神岬会館の電子線量計と

美国広域モニタリングポストでの観測点を含め、町内7箇所での緊急時空中放射線量を観測する体制が整うこととなります。

企画課関係

地方交付税算定結果

平成28年度の普通交付税交付金が、去る7月26日に決定されました。

当町においては、2015年国勢調査人口減少による減額要因により、前年度と比べて4,024万8千円、2・5%減の15億6,748万7千円。臨時財政対策債と合わせた総額では16億3,256万2千円（前年度比6,368万9千円、3・8%減）となりました。

この総額は、当町の当初予算見込額を下廻ってはいないものの、一般財源の縮減による今年度の全体的な財政運営への影響は否めなく、今後の特別交付税の決定状況をも見極めながら、今年度の行財政運営に留意していきます。

町制施行60年記念事業計画

本事業計画につきましては、第4回臨時会において補正予算措置を講じ、順次事業を行っております。検討事項としておりました町内各種団体等が主催する大会やイベントの意向調査を行いました。要望はありませんでした。

今後予定の追加計画事業としては、「昭和の思い出の夕べ（歌謡コンサート）」、「積丹町ふる里校歌集等制作」、「町民祝い品の配布（北海道日本ハムファイターズ応援大使連携事業）」などの実施を検討中です。

地方創生関連事業の実施状況

国の今年度の地方創生推進交付金につきましては、去る8月2日付けで交付内示を受けて、第5回臨時会において補正予算措置を講じたところであり、その後、同月17日付けで国へ交付申請書を提出し、同月30日付けで交付決定を受けましたので、事務事業をとり進めていきます。

また、加速化交付金事業を含

む本関連事業の実施状況については、随時に議会の現地視察等の機会のご配慮をいただければ幸いです。

加速化交付金事業の「積丹の気候風土を生かした『スピリッツ開発』によるしごと創生事業」では、既にどさんこ馬を活用した圃場整備の可能性調査が開始されていることから、馬車による周遊やJ.Tの森活動と連携した木材の馬搬等、調査事業啓発イベントの実施を予定しています。

また、推進交付金事業で実施予定のホースセラピーを10月中旬に、旧積丹牧場で開催するべく、準備を取り進めています。「積丹版『健康食』と運動プログラム開発によるしごと創生事業」につきましては、参画する町外の医師、民間企業など関係者との調整に時間を要していましたが、早期に委託契約を締結し、健康食の開発や運動プログラム開発を実施することで関係者との調整が整いつつありますので、事業の円滑な推進に努めていきます。

後志広域連合の動向

後志広域連合は、去る8月9日、第2回後志広域連合会議を開催し、第1回後志広域連合議会臨時会への付議案件などについて協議が行われ、また、同議会臨時会は、同月29日招集され、平成28年度介護保険事業特別会計補正予算など、議案3件が原案どおり可決されました。

まちづくり活動支援基金補助金

去る7月25日を締切日として、本年度第2次募集を行いました。今回は、地域づくり支援事業（ソフト系事業）及びまちづくり支援事業（ハード系事業）いずれも応募はありませんでした。

香美市との姉妹都市交流

積丹町地域間交流推進協議会（鎌田淳史会長・構成7団体）は、去る8月6日、香美市で開催された第48回土佐山田祭りに3名を派遣・参加させ、香美市の皆さんとの合同チームでソーラン節の音頭に合わせた踊りを披露



▲香美市児童との交流

し、会場の同市民との交流を深めてきました。

また、昨年引き続き同月18日から21日までの4日間、香美市内の小学校4校の児童7名と、引率者の小松教育次長、教職員等2名が来町し、美国小学校での交流会やウニ剥き体験学習、美国小学校及び日司小学校児童保護者宅でのホームステイなどの交流活動を行いました。今年度は更に、香美市の児童が冬の積丹町を体験したいとの希望があることから、現在、両市町において実施に向けた検討を行っているところです。なお、本町の児童は、昨年と同様、冬休み期間中に香美市を訪問する予定です。

住民福祉課関係

来る10月には恒例の同市刃物祭りへの参加が予定されており、同協議会構成団体会員及び町職員の派遣など、姉妹都市・香美市との北と南の交流の絆を深めるべく訪問の準備を進めています。

9月12日ゆうり公衆浴場「いいい」オープン

「憩いの広場」整備本格化へ
社会福祉法人よいち福祉会の地域住民への公益事業として併設した公衆浴場の運営は、9月12日から開始することになりました。

この浴場のオープンにより、旧町営公衆浴場廃止に伴うエイジングステーション「やすらぎ」の浴室設備を利用した代替入浴特例措置は廃止することとして、利用者への旨を通知しました。

代替特例措置に伴う、「やすらぎ」入所者の方々の9年6か月以上に及ぶご協力に感謝を申し上げます。

また、同施設に隣接する町の「憩いの広場」整備につきまし

ては、本年度の敷地内造成工事が、9月12日から本格化します。工事期間中並びに遊具等の再整備までの間、近隣の方々や公園利用者には不便をおかけしますが、ご理解とご協力をいただきたいと思います。

インフルエンザ予防注射18歳未満無料に

B型肝炎定期接種へ

インフルエンザ予防接種は、満年齢1歳以上の全町民を対象に昨年度と同水準の助成基準で実施するほか、当町独自の子ども子育て支援対策の観点から、満1歳から満18歳（未就学児から高校生）までの「接種費用の無料化」による助成要件の拡充を図ります。

B型肝炎予防接種については、予防接種法施行令の改正により、本年4月1日以降に生まれた0歳児を対象として、来る10月1日から定期予防接種に追加されることになりました。

「バスカード」「福祉灯油」支給要件拡充検討中

昨年度の両事業は、当町独自の助成制度として、高齢者・障

害者世帯とひとり親世帯、多子世帯を対象に実施しておりますが、今年度の実施に向けては、子育て支援対策の観点から、その支給要件の拡充について検討中です。

特に、福祉灯油特別対策事業については、毎年11月1日時点の町内平均小売価格の1リットル70円〜100円までを1万円増とし、5円増すごとに千円を増額して助成してきました。

しかし、今年に入り、価格の下落傾向が続いている状況を踏まえて、今後の冬期に向けた価格の動向を見極めながら、支給下限基準の1リットル70円を下回った場合の助成措置のあり方について、近隣町村の動向も参考にしながら検討を進めています。

国の年金生活者等支援臨時福祉給付金等

9月下旬申請受付開始

国の「一億総活躍社会」の現に向けた繰越予算による、平成28年度に65歳以上となる低年金受給者対象者への「年金生活者等支援臨時福祉給付金（1人3万円）」については、平成28

年4月26日から7月26業が終了し、期間中の支給決定者は498人で、総額1,494万円が支給されました。

平成28年度の65歳未満の障害・遺族基礎年金受給者を対象とした「年金生活者等支援臨時福祉給付金（1人3万円）」及び「臨時福祉給付金（1人3千円）」については、給付金等電算事務システムの改修作業が完了し、9月下旬を目処に申請受付を開始し、支給決定後随時支給してまいります。

小樽協会病院の分娩再開に向けて

北後志周産期医療協議会

社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院の分娩再開に向けた支援策を検討する北後志周産期医療協議会（会長：森井秀明小樽市長、構成：北後志6市町村、北海道及び医療関係団体等15団体）の第2回目の会合が、去る8月19日に小樽市役所で開催され、北海道社会事業協会吉田理事長（余市協会病院院長）から「分娩取扱再開に向けた企画書（案）」について説明がありました。

企画書（案）では、本年10月から、医師・助産師の段階的な増員と一部の施設改修を実施しながら分娩再開、地域周産期母子医療センターの稼働再開並びに助産師外来の設置準備を目指したいとしています。

また、全体的・長期的な医師確保や施設整備、運営収支計画等体制整備課題の方向性については、3つのワーキンググループでの検討結果により、引き続き協議することになりました。

余市協会病院救急医療に係る財政支援

同病院に対する財政支援につきましては、平成22年度から北後志5町村が連携して行ってきた経緯にあります。去る8月2日、同病院から本年度の財政支援に関する要請がありました。

支援要請の内容は、平成27年度救急医療体制収支赤字相当額で総額約3,943万円（前年度比1,210万円増）であり、出張医師の増（月2回から毎週1回）に伴う人件費の増が主な要因となっています。平成27年度と同病院への休日を含む夜間の当町からの救急患者数は140名で、前年度と比較して3名増加しています。同支援は、町民の生命に関わる救急医療体制の確保の必要性を踏まえて、昨年同様、同病院と北後志5町村間で協議検討を重ね、協議が整い、関係町村と連携して所要の補正予算措置を講じたいと考えています。

保育所関係

保育所の運営状況

8月末現在の入所児童数は、びくに保育所で24名（前年度比3名増）、みなと保育所では8名（前年度比4名減）という状況です。

子育て支援センターの運営状況について

8月末現在の利用者は、延べ407名（前年度比272名、33%減）、1日平均4名です。

各地区の会館を利用した「出張遊びの部屋事業」は、8月末現在で5回実施し、児童と保護者を合わせて15人の利用がありました。

国保診療所関係

運営状況

8月末現在の外来患者数の状況は、延べ2,665人（1日平均26人）で、昨年同期と比較し79人の減、1日平均の増減無しという状況です。

また、余別、入舸管内からの患者送迎バスの運行につきましては、8月末現在で延べ400人（42日間運行、1日平均9.5人）が利用し、昨年同期（42日間運行、延べ430人、1日平均10.2人）と比較して30人減という状況です。

社会福祉法人よいち福祉会との医療委託契約による「ゆるり」入居者への診療の状況は、月4回の回診及び個人状況に応じた診療等を行っており、8月末現在の概況では、延べ200人、総額100万円の診療収入となります。

商工観光課関係

観光施設の利用状況

「岬の湯しやこたん」、「しや

こたん土産と喰い処カマイ番屋」及び「水中展望船」の営業状況につきまして、売上金額及び入込人数ともに、昨年度実績を除くと、ほぼ平年並みで推移している状況にあります。

また、この夏の小泊地区海浜公園及び野塚野営場でのキャンパー等海浜遊樂者の利用は、「海の日（7月18日）」や新たな祝日「山の日（8月11日）」及びお盆期間中を中心に、一時的に駐車場の確保が困難な状況にありました。

特に小泊地区海浜公園では、約1か月にわたり臨時駐車場を設置するなど、余市警察署とともに安全対策を講じたところで



▲観光客で賑わう神威岬

岬の湯しゃこたん冬期対策

本年8月末における利用者数は延べ5万4,382人、売上額は5,405万円、一人当たりの客単価は994円（前年度1,011円）と、前年と比較して2,865人、381万円の減少という状況で推移しています。

岬の湯しゃこたんへの入込みは夏期が中心となっており、昨年度におきましても、全入館者の82%が4月から10月に集中しています。

こうした実状を踏まえた、同事業特別会計の改善対策として、本年度におきましても、11月から翌年3月までを冬期対策期間として設定し、

①営業時間を午前11時から午後8時30分までとし、営業時間を1時間30分短縮すること。

②水曜日に加えて木曜日も休館日とし、休館日を増やすこと。

③11月26日（いいふろの日）の無料開放

④毎年12月から翌年3月までの毎月26日に利用する場合の使用者料2分の1減額

⑤ 葉湯、ゆず湯、ビンゴ大会等、計画的なイベント

などの対策を実施し、運営経費の縮減と冬期の集客対策に努めます。

去る7月10日早朝、野塚地区で落雷が発生し、温泉施設内の複合火災受信盤、温泉監視システム、自動制御集中操作盤が制御不能となり、何れも内部基盤設備の損傷で、手動切替等の対応により、通常営業をしてきたところでは、

これによる同操作盤の修繕が必要ですが、罹災による建物災害共済保険が適用される見通しがつきました。

島武意海岸トンネル通行止

今年度の島武意トンネル改修工事に伴う同トンネルの通行止めは、10月3日から来年3月下旬を予定しています。

この期間中は、積丹岬遊歩道内に島武意海岸が眺望できる代替展望スペースを例年どおり確保します。

観光関連事業者及び利用者皆様のご理解とご協力をお願いします。

積丹ソーラン味覚祭り

今年で11回目となる「積丹ソーラン味覚祭り」は、去る6月26日に開催され、前日からの悪天候により、来場者数は昨年の約7割にあたる、1万9千人でした。

このイベントの開催にあたり、町民の皆さんをはじめ、運営に携わっていただいた多くのボランティア、実行委員会並びに関係機関の方々に対し感謝を申し上げます。

ゴミ持ち帰り運動等

今年も、自治会など関係団体の皆さんのご協力をいただき、

去る7月26日と8月5日に海水浴客、キャンパー等に対するゴミ持ち帰りの啓発と周辺の清掃活動を実施したほか、8月28日には町民並びに小樽建設管理部余市出張所職員など151人の参加をいただき、「クリーン作戦」を実施しました。

また、7月・8月中には、社会貢献活動の一環として「株式会社伊藤園」、「小樽潮陵高等学校」、「NPO法人北海道海浜美



▲クリーン作戦

化をすすめる会（札幌市）など、多くの町外ボランティアの支援をいただきました。

活動に参加いただいた町民の皆さん、関係機関の方々に感謝を申し上げます。

多数のテレビ放映で

観光PR活動

今シーズンの観光PR活動については、大型クルーズ船小樽港入港に伴い、外国人乗船客に対する観光PR活動を実施しているほか、去る7月29日には札幌市で「大通り8丁目THE サッポロビアガーデンふるさと応援ステージ」に参加するなど、当町の魅力発信に努めています。

また今年度も、テレビ等メディアを通じて、町内の観光スポットを紹介する番組が数多く制作放送され、その取材協力に対応してきました。

その内容は幅広く、また、全国放送や海外向けの番組、CMなど十数本が町内で撮影されており、それらの当町の情報は、ラジオ・テレビでの生中継などで発信されています。

特に、秋期に向けて、婦美地区カラマツ林の雑誌掲載やハート型に見える宝島の案内看板設置、ふるさと納税返礼商品の当町及び北海道採用による「岬の湯しやこたん入浴券」提供PRなど、地域資源を活用した新たな観光誘客対策などに取り組んでいます。

農林水産課関係

農業の概況

畑作物は、春先の低温により発芽不順がみられましたが、カボチャ、スイートコーン、ミニトマトは順調に生育し収穫期を迎えています。馬鈴薯については疫病の発生により小玉傾向と

なる圃場が多く、収穫量は、平年を若干下回る見込みです。

また、デントコーン畑において、昨年同様にヒグマの被害が頻発し、その対策として、被害が集中する地区及び目撃情報が多発する地区に捕獲用檻を4基設置していますが、未だ捕獲に至っていない状況にあります。

被害拡大を防ぐため、引き続き北海道猟友会古平分区並びに北海道後志総合振興局環境生活課など関係機関と連携して檻の設置方法や餌の種類などを工夫し、捕獲に努めていきます。

肉用牛黒毛和種は、価格が高値で安定しており、今後も堅調に推移する見込みです。

生乳の生産量については、猛暑の影響から分娩間隔がずれ込み、前年対比約2割減ではありますが、価格が高値で安定している状況にあります。

漁業の概況

8月末現在の東しやこたん漁業協同組合当町管内の水揚げ状況は、タラ、エビの水揚げが大きく下回りましたが、ヤリイカ、カレイの水揚げが伸びたこと

から金額では393万円(0.7%)増の状況で推移しています。

マリネビジョン21コンテスト入賞

北海道開発局が所管する全道直轄漁港31港(6市24町)の、魅力ある漁港・漁村づくりに取り組み優れた活動を表彰する「北海道マリネビジョン21コンテスト」において、当町地域マリネビジョン協議会が個別取組部門「北海道マリネビジョン21促進期成会会長賞」を受賞しました。

受賞は、森・川・海のつながりをテーマとした「余別新川におけるサケ類資源回復対策事業」が高く評価されたもので、

去る7月13日札幌市で開催の同促進期成会総会の席上で、今北海道開発局長並びに吉塚水産庁漁港整備課長など多くの来賓の参席の下で、森同協議会長(苦前町長)から表彰状の授けられました。

美国漁港整備の進捗状況

今年度施工中の美国漁港外北防波堤改良工事(延長32.5m)

は、提体を撤去し、新たな提体(ケーソン)の据付が完了しました。引き続き、上部工及び消波工の整備が施工されます。

また、昨年度から施工している同防波堤頭部改良工事(延長9.5m)では、航路標識灯(赤灯台)を一時撤去し簡易標識灯を仮設しておりましたが、9月下旬に恒久標識灯の設置工事が完了する予定です。

小規模治山事業

実施設計作業中の日司地区小規模治山事業及び余別地区防災避難路等整備事業につきまして、日司地区小規模治山事業における工事費積算単価の増高等により、本体工事費が計画見込額より増額となる見込みとなつたことから、既に道から補助金の内示を受けている本年度の余別地区小規模治山事業(平成28~29年度、2カ年計画)計画事業費を縮減して、日司地区治山工事の平成28年度単年度での完成を図ることとしました。

北海道森林土木建設業協会後志・倶知安支部主催ポラントニア活動の実施

同協会後志支部(大和田稔支部長、構成20社)・倶知安支部(柏谷匡胤支部長、構成5社)は、平成21年3月に後志総合振興局と「森林災害復旧支援等に関する協定」を締結し、地域の森林や治山・林道等公共施設を守る社会貢献活動を毎年後志管内の市町村で行っています。

その一環として、来る9月28日、日司地区市街地の治山施設のコンクリート擁壁周辺の笹、雑木等の除去や側溝等の清掃作業を、同支部会員を中心に地元自治会及び後志総合振興局林務課など関係機関と協力して実施することになり準備を進めています。

建設課関係

建設工事の発注状況

総契約2億9千万円

6月11日以降、9月5日までの建設工事等の発注状況は、土木関係5件、建築関係6件、水道関係2件、下水道関係3件、計16件、工事契約金額2億6,

705万2千円です。

現在施工中の主な工事は、島武意トンネル改修工事、入舸中央橋架替工事、憩いの広場整備工事、幌武意墓地線改良工事、町道維持補修工事、入舸会館窓改修工事、余別地区コミュニティセンター屋根改修工事、総合文化センター屋根防水外改修工事、多茂木職員住宅解体工事、公営住宅美国団地屋根外改修工事、簡易水道量水器取替工事、来岸地区簡易水道老朽管更新工事、日司及び美国地区集落排水放流ポンプ取替工事等であり、美国小学校体育館トイレ改修工事は完了しました。

委託業務は、土木関係3件、建築関係1件、地籍関係1件、計5件、契約金額2,384万6千円で、余別及び日司地区補助小規模治山事業測量設計委託業務、憩いの広場用地確定測量委託業務、公営住宅多茂木団地建設実施設計委託業務、入舸地区地籍調査事業委託業務を現在実施中です。

これにより、工事及び委託業務を合わせた総契約件数は21件、総契約金額は2億9,089万8千円です。

今後、島武意通り線改良工事、幌武意漁港通り線路肩補修工事、来岸茅沼通り線舗装工事などの発注を予定しています。

美国川河川改修事業

小樽開発建設部が実施する国道美国橋架替工事は、既に旧橋左岸橋台・橋脚の解体と流雪溝仮排水設備が完了し、現在、新橋左岸橋台・橋脚の築造を施工中です。

また、北海道が実施する護岸整備工事は、国の補正予算事業による事業の進捗を図るため、国道橋架替後に予定される町道付替補償工事に影響しない河口左岸部（柳町地区・延長約70m区間）の護岸整備工事の追加実施を、予算要望中である旨の連絡を受けています。

国道整備

「沼前船揚場」・「野塚ウエント橋」保全工事着手

小樽開発建設部が国道附帯施設として整備した神岬沼前地区の補償船揚施設は、波浪による洗掘を受け、斜路部の天盤コンクリートが崩壊している状況に

あり、国道車道部の安全確保に重大な影響を及ぼすおそれがあることから、その保全工事が10月より実施される予定です。

野塚ウエント川国道野塚橋は、小樽開発建設部がボルト全数交換、床版及び下部補修工、伸縮装置取替工、防護柵補修工など必要な橋梁補修工事を10月より実施する予定です。

道道整備

「野塚冷水沢川」補強対策

道道野塚婦美線、積丹大橋付近の野塚冷水の沢川の横断アーチ形カルバートは、管渠内金属部の腐食による損傷が著しいことから、後志総合振興局小樽建設管理部が昨年度に実施した底版コンクリート補強による応急対策工事に引き続き、今年度は恒久対策工事のための詳細設計が実施されている他、同管渠内における上面金属部の腐食進行を防止するため、下地処理を含む塗装工事が10月から実施される予定です。

入舸地区地籍調査事業

初年度となる入舸地区市街地

を対象とした地籍調査事業は、調査測量業者が決定し、去る7月26日に住民説明会を開催しましたが、参加者が少なかつたため、自治会の協力を得て、後日、同説明会資料を町内各戸に配付しました。

今年度は、現地での測量調査が主な作業となり、私有地への立ち入りや雑木の枝払い、雑草の刈払いなどが伴いますので、関係者並びに町民各位のご理解とご協力をお願いします。

教育行政報告 (要約)



（十河 昌寛 教育長）

学校教育について

夏季休業

児童生徒の夏季休業は、美国、野塚、余別の3校の小学校と美国中学校は、7月23日から8月16日までの25日間、日司小学校は、7月26日から8月18日までの24日間であり、この間児童生徒には大きな事故や怪我もなく、各校の2学期始業式には、元気に登校し、新たな学校生活を送っています。

この夏季休業期間中は、児童生徒にとって、家庭を中心とした生活を送る中で、家庭や地域で多くの人と関わりながら自然体験や自由研究など自主的・自律的に生きる力を身につけるため

のよい機会であり、有意義に過ごされたものと思っております。

また、各学校においては、長期休業中における生活習慣のリズム化を図るため、生活リズムチェックシートの活用、朝のラジ体操や基礎学力の向上を目指した補充的な学習を行ったところです。

姉妹都市高知県香美市児童交流事業

昨年引き続き2年目を迎えた本事業については、去る8月18日から21日までの4日間、姉妹都市高知県香美市から香美市教育委員会 小松次長をはじめとする3名の引率で、香美市内の4校の小学校から7名（5年生3名、6年生4名）の児童が来町しました。

この日は美国小と日司小学校児童3件の保護者宅でのホームステイを行い、一夜を共に過ごした両市町の児童は更に交流と友好を深めていきました。

その後、一行は小樽市内と札幌市内を視察後、帰路に着いたところです。

この姉妹都市交流事業は香美市との地域間交流の更なる発展はもちろんのこと、未来の積丹町を担う児童にとっても、文化や慣習の違い他地域の児童との交流の機会・生活体験を通して、広い視野や社会に適應する力を育成することを期待して行われたもので、今後もこの交流を更に発展させ、継続していくことが重要であることから、引き続き明年1月に積丹町の児童を香美市へ訪問させ、両市町の交流を深めていきます。

また、香美市より冬の積丹町訪問の強い希望があり、姉妹都市交流25年、市政施行10年を機に、その初めての実現に向けて、その受入対応方法の具体策について、検討を進めています。

また、香美市より冬の積丹町訪問の強い希望があり、姉妹都市交流25年、市政施行10年を機に、その初めての実現に向けて、その受入対応方法の具体策について、検討を進めています。

また、8月27日に開催された後志北地区中学校新人大会において、卓球女子団体戦で見事優勝を飾りました。

生徒の各大会での努力を讃えるとともに、更なる健闘を期待しています。

また、8月27日に開催された後志北地区中学校新人大会において、卓球女子団体戦で見事優勝を飾りました。

また、8月27日に開催された後志北地区中学校新人大会において、卓球女子団体戦で見事優勝を飾りました。

後志中学校体育大会等

後志中学校体育大会は、6月24日から7月2日まで後志の各町村を会場として開催され、美国中学校からは、水泳、バドミントン、卓球、野球そして陸上の5競技に出場しました。

日頃の練習の成果を発揮すべく、各競技一生懸命最後まで力を出し切り健闘しましたが、小樽・後志地区代表決定戦への出場は成りませんでした。

また、8月27日に開催された後志北地区中学校新人大会において、卓球女子団体戦で見事優勝を飾りました。

生徒の各大会での努力を讃えるとともに、更なる健闘を期待しています。

全日本吹奏楽コンクール札幌地区大会

美国中学校吹奏楽部が、去る8月4日札幌コンサートホールきたら Kitaraにおいて開催された全日本吹奏楽コンクール札幌地区大会中学校C編成（25名以内）の部に参加しました。

同校吹奏楽部は、15名の小規

模編成での参加であり、日頃の練習の成果を発揮し、堂々とした演奏を披露しましたが、残念ながら銅賞となりました。

この生徒たちの日々の努力の成果に大きな拍手を送りますとともに、今後の活躍を期待するものです。

積丹町小学校陸上競技大会

町内児童の体力の向上と親睦を深めることを目的に、4校の小学生在一堂に会して、町教育委員会主催による第42回積丹町小学校陸上競技大会を、去る9月1日、研修広場で開催し、トラック競技6種目とフィールド競技2種目、合計8種目を行いました。

今大会ではソフトボール投げにおいて、2年男女で大会新記録がでました。

好成績をあげた児童たちを讃えるとともに、各種目で精一杯頑張り、炎天下の下、児童に温かい声援を送ってくださいました保護者や地域の方々、大会運営にご協力いただいた教職員に感謝とお礼を申し上げます。

業 余別地区遊具等設置整備事業

地元自治会や保護者から要望がありました本事業については、ブランコ、シーソー、ベンチテーブルが8月30日に設置され、地域の児童らが喜んで仲良く使用しています。

今後の利用状況や地域の意見等を勘案し、遊具の充実に努めていきます。

生涯学習について

社会教育の推進

少年教育につきましては、子どもの望ましい生活習慣の定着に向け、生活リズムが乱れがちな長期休業期間中における学習や運動を子どもたちに提供するとともに、学校・家庭・地域が一体となった取組として、7月26日から29日までの4日間、B&G海洋センターを会場に夏休み「朝活どう場」を開催しました。

3年目を迎えた本事業は、昨年より3名多い町内小学校児童46名が参加し、自学自習プログラムとして、家庭学習のほか、

学校が用意したドリルなどを活用し、町内小学校4校の教員により、個々の児童に応じた学習支援を行いました。

更に、自学自習プログラム終了後、運動を取り入れた健康的な生活習慣が身に付くよう、運動習慣プログラムとして「B&Gジュニア水泳教室」を行いました。

本事業の実施により、健康的な生活習慣と、集合学習を通じた各学校の異学年児童との交流の機会が確保され、子どもの生活習慣づくりに寄与できたものと評価しています。

次に、地域の豊かな自然環境の中に学習資源を発掘しながら、集団生活や体験的な学習活動を通して自立心や責任感を育むことを目的に、小学校の児童30名が参加して、8月4日～5日の1泊2日の日程で、積丹町B&G海洋センター等を会場に、第2回少年教室「B&G野外体験プログラム」を開催しました。

初日は、参加者全員でテントの設営、ビバーク体験、クラブト制作、小泊海岸を会場とした海洋性レクリエーションを実施



▲B & G 野外体験プログラム

した後、作業の分担をし、炊事体験、更には、花火等のレクリエーションを行いました。

2日目は、小泊海岸で不測の事態における自助・共助意識を喚起する安全学習会を行い、水辺での安全行動の意識を高めたところです。

今後、児童の自主性・社会性を育むために必要な学習に努めていきます。

文化の振興

日頃、芸術鑑賞に親しむ機会の少ない児童が身近で鑑賞する機会として、去る7月19日、美国小学校を会場に、平成28年度「小学校芸術鑑賞会」を開催し

ました。

今回は、東京都の劇団民話芸術座による民話劇「花咲き山」を鑑賞し、町内4校の児童は、照明器材の操作による美しい光のコントラストに感激し、楽しいダンスに引き寄せられ、劇のテーマである「人を思う優しいところ」の大切さを理解したもののと思います。

今後も児童生徒に直接芸術に接する参加体験型の文化・芸術鑑賞を通して、豊かな人間性を育むとともに、自主的・自発的な文化・芸術の振興に努めていきます。

また、積丹町町制施行60年記念事業として、札幌交響楽団のコンサートを招致し、優れた芸術に触れる機会としていただくよう、準備を進めています。

B & G 海洋センターモデル事業

昨年度から取り組んでいる「海洋センターを活用した地域コミュニティの再生に関するモデル事業」につきましては、3つの事業を柱に新たなコミュニティの創出に向け事業展開を行っています。

①「B & Gはつらつウォーキング事業」については、町民の健康意識を喚起することを目的に、約80名が参加し、去る7月17日に、岬の湯しゃこたん周辺を会場に、積丹町町制施行60年記念事業「積丹ウォーキングフェスタ」を開催しました。

当日は、マラソンランナーの谷川真理氏をゲストに迎え、岬の湯駐車場をスタートし、参加者は、町内の自然の素晴らしさや歩くことの楽しさを感じながら、3キロ・5キロ・10キロの各コースを散策しました。

また、本事業に合わせ、札幌学院大学経営学部河西ゼミナール主催による「おしごと体験」が同会場において、町内小学校児童19名と、教員・学生22名が参加し開催されました。

この事業は、事前に児童と学生が共同で考案したオリジナルの飲み物を「積丹ウォーキングフェスタ」参加者へ販売することで、飲食店の仕事や運営について体験的に学習する機会を提供するもので、子どもたちはウォーキングフェスタ参加者へ積極的な売り込みを行い、楽しみながら働くことの喜びを体感



▲積丹ウォーキングフェスタ

していました。

更に、来る10月15日～16日に、町民健康講座として、栗原クリニック東京・日本橋院長栗原毅氏、同院歯科医師栗原丈徳氏を講師に招き、町民の運動習慣と健康意識の向上を図る、実践型の健康教室を昨年に引き続き開催する予定です。

②「Let's try B & Gキッズ広場設置事業」については、本年6月に絵本、児童文学書籍や健康関連などの図書217冊を購入し、図書コーナーの充実を図るとともに、読書活動の推進と学習情報の提供に努めています。

また、公益財団法人読書推進運動協議会の定める読書週間に合

わせ、11月には北海道立図書館の協力を得て、子どもから大人までを対象とした「B & Gブックフェスティバル」を開催する予定です。

③「B & Gいきいき・たまり場事業」につきましては、子どもの居場所づくりや高齢者の利用拡充を図るため、町内小学校児童を対象とした「放課後のB & G音楽クラブ」の活動を、去る7月1日より開始しています。

本事業は、音楽講師を迎え、音楽の基礎を学ぶ集合活動を11月12日までの間、全10回予定し、現在児童17名がクラブ員として登録しています。

また、一般町民を対象としたコミュニティ活動として、声楽講師の指導の下、童謡や懐メロなどの合唱を行う音楽プログラムを実施し、海洋センターを交流活動の場として提供することを目的に、「大人の混声B & G合唱クラブ」を、8月25日から開講し、36名がクラブ員として登録されており、11月12日まで6回に渡って活動を予定しています。

なお、「放課後のB & G音楽クラブ」及び「大人の混声B &

G合唱クラブ」については、高橋はるみ北海道知事が学長を務める道民カレッジの連携講座として位置づけられています。

今後、スポーツ活動以外の分野においても、海洋センターが交流活動の場として活用されることを期待しています。

更に、災害発生時に速やかに避難所の設置・運営ができるよう、避難所生活の体験機会の提供と、地域住民及び関係職員の防災意識の向上、地域力の強化を図ることを目的に、一般町民・関係職員等72名が参加し、去る8月4日～5日に、「B & G避難所体験講座」をB & G海洋センターを会場に開催しました。避難所の環境を体感すると



▲B & G避難所体験講座

もに、町所有の防災用資機材等の展示スペースを設け、炊事体験・災害時の食事情形体験・専門講師の指導による防災備品使用体験、疑似宿泊体験を実施しました。

参加者は、特に仮設トイレや寝具等の防災備品について積極的に質問する等、地域の防災意識を高める上で有意義な活動であったと評価をいたしています。

積丹町研修センターの利用状況

積丹町研修センターの今シーズンの運営にあたっては、地方創生加速化交付金を活用し、照明設備・トイレ・壁紙・玄関前階段等の修繕と、椅子・テーブル等の集会室用備品を整備し、研修施設としての機能向上を図ったところです。

8月31日現在までの利用状況は、宿泊日数20日間（前年20日間、増減なし）、宿泊利用者数延べ430名（前年延べ508名、78名減）という状況です。

9月以降につきましては、学生インテーンシップ等の宿泊日数8日間延べ160名が予定さ

れています。
 今後も利用の拡充を図るともに、研修センターの有効活用
 に努めています。

審議された案件

報告第1号

平成27年度財政健全化判断比
 率の報告について

地方公共団体の財政の健全化
 に関する法律の規定に基づき、
 監査委員の意見を付して報告す
 るものです。【表1-①・②】

(報告)

議案第1号

平成28年度積丹町一般会計補
 正予算(第6号)

日司地区小規模治山事業費や
 余別地区防災避難路等整備事業
 費、町制施行60年記念事業費な
 ど、歳入歳出予算の総額にそれ
 ぞれ5,529万1千円を追加
 し、29億4829万4千円にす
 るものです。【表2】

(原案可決)

議案第2号

平成28年度積丹町国民健康保
 険事業特別会計補正予算(第2

号)

町立国保診療嘱託町の月額
 報酬の引き上げ及び社会福祉法
 人よいち福祉会との医務委託契
 約に基づく委託料相当額の加算
 に伴う報酬予算の追加により、
 直診勘定の歳入歳出予算の総額
 にそれぞれ300万円を追加
 し、7,618万7千円にする
 ものです。

(原案可決)

議案第3号

平成28年度積丹町産業交流雇
 用対策推進事業特別会計補正予
 算(第1号)

岬の湯しゃこたんの設備罹
 災に伴う修繕費として歳入
 歳出予算の総額にそれぞれ
 190万円を追加し、1億2,
 594万5千円にするもの
 です。

(原案可決)

意見案第1号

林業・木材産業の成長産業化
 に向けた施策の充実・強化を求
 める意見書

(原案可決)

【表2】一般会計追加補正予算の主な内容

- 日司地区小規模治山事業費
 2,080万7千円
 (補助金10,000千円・地方債10,800千円)
- 余別地区防災避難路等整備事業費
 1,787万8千円
 (補助金2,500千円・地方債15,300千円)
- 総合行政システム等関連機器購入費等
 443万円(補助金452千円)
- 議員報酬等
 378万7千円
- インフルエンザ予防接種事業費等
 191万3千円
- 町制施行60年記念事業費
 115万円

【表1-①】健全化判断比率の状況等

■健全化判断比率

指標名	積丹町	早期健全化基準	財政再生基準
①実質赤字比率	—	15%	20%
②連結実質赤字比率	—	20%	30%
③実質公債費比率	8.9%	25%	35%
④将来負担比率	71.3%	350%	—

(注) 将来負担比率には、国の財政再生基準はありません。

■資金不足比率

会計名	積丹町	経営健全化基準
簡易水道事業特別会計	—	20%
下水道事業特別会計	—	20%
産業交流雇用対策推進事業特別会計	—	20%

(注) 一般会計からの繰り入れなどにより資金不足を生じていないため「—」表示しています。

【表1-②】「財政健全化判断比率」についての監査意見

■簡易水道事業特別会計

基準外繰入金26,185千円は、収入済額の15.3%に相当しており、独立採算制を基本とした経営状況の健全化に近づけるため加入率の向上や使用料の滞納対策など、自主的な改善努力が必要である。

■下水道事業特別会計

基準外繰入金34,158千円は、収入済額の58.8%に相当しており、独立採算制を基本とした経営状況の健全化に近づけるため加入率の向上等、自主的な改善努力が必要である。

■産業交流雇用対策推進事業特別会計(岬の湯しゃこたん)

基準外繰入金29,396千円は、収入済額の25.1%に相当しており、今後は、施設等の老朽化に伴う更新の必要性が高まるなど、管理費用の増嵩が懸念される。中長期的な視点での資金需要の把握、経営の健全化に期待する。